

## 『『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築』

プロジェクト責任者 遠藤 潤

### 1. 事業概要

本研究事業（期間：2011～2013年度）は、日本文化研究所の二つの研究部門のうち、「神道・国学研究部門」の研究事業として行われるものである。同研究所では、創立以来、神道の基礎的研究、神道・国学関係人物研究、神社史料調査などの活動を継続的に行ってきた。本事業は、こうした成果に立脚しつつ、国学に関する基礎的研究を進めるとともに、学内でさまざまに行われている国学研究のプラットフォームを構築し、ひいては学外との研究交流の基点たらしめようとするものである。実施内容は次の通りである。

#### I 国学研究の基礎的データ構築

- (1) 『古史伝』版本のデジタル化とそれにもとづく研究。デジタルデータをデジタルミュージアムで適切な形態で公開するとともに、精読のための研究会を開催し、テキストについての基礎的な研究を進める。
- (2) 国学者の地域拠点の研究。幕藩制下の神社政策の把握、藩と国学者の関係についての研究、門人組織の把握（大平門、気吹舎、神習舎など）、地域組織の把握（地域リーダーの把握とともに）などを行う。得られた成果については、国学関連人物データベース（研究開発推進センター）へフィードバックする。

#### II 国学に関する研究連携のための組織づくり

国学研究会を運営し、学内（学部・大学

院）の国学関係の研究プロジェクトや研究者の参加を呼びかけ、異なるプロジェクト間での研究関係情報の共有を行う。

代表者 遠藤潤（准教授）

分担者 松本久史（兼担准教授）、林淳（客員教授）、小林威朗（PD研究員）、三ツ松誠（PD研究員）、武田幸也（研究補助員）、一戸渉（共同研究員）、小田真裕（共同研究委員）

### 2. 2013年度の実施計画

#### I 国学研究の基礎的データ構築

- (1) 『古史伝』版本のデジタル化とそれにもとづく研究

・『古史伝』版本の読書会、注釈の蓄積

精読のための研究会を今年度も隔週で行う。研究にあたっては、デジタル撮影済の本学所蔵『古史伝』版本をもととし、『古史伝』草稿本（秋田県公文書館蔵）を適宜参照して、版本の形態になる以前の加筆・訂正などの編集作業についても配慮しつつ読解を進める。

研究会の成果については、記録の形で蓄積をし、公開にふさわしい内容については、デジタル・ミュージアムでの本文に付加できる形へと編集する。

- (2) 国学者の地域拠点の研究

・薩摩藩などの神道・国学関係資料の調査

藩と国学者の関係についての研究に関して、平成25年度は薩摩藩を中心的な対象とし、前年度までに扱った加賀藩、紀州藩も継

続しつつ、今後の研究の可能性を含めて調査・研究する。薩摩藩については、薩英戦争後のイギリスと国学者の関係を考察し、幕末維新期の神仏分離や廃仏毀釈の動きに対する国学者の実際の関与を再検証するという問題関心のもと、メンバー全員の参加によって調査・研究を進める。具体的にはすでに活字化された史料の検討を進めた上で、鹿児島県立図書館および鹿児島県歴史資料センター黎明館などの所蔵資料について神道・国学研究の観点からの調査を行い、藩の神社政策や国学者の位置づけについて考察する。

加賀藩と紀州藩については、平成25年度は基本的に研究事業としての実地調査は行わず、平成24年度までの調査をふまえて文献調査や関連する研究動向を把握することを主要内容とする。

また、これまで読解を進めてきた高玉家宛平田鋳胤書簡については、出版に向けた内容の最終確認を進める。

## II 国学に関する研究連携のための組織づくり

国学研究会を数回開催する。

また、3年間の研究事業の成果の総括のために、近世・近代の国学研究に関するシンポジウムを開催する。

この事業によって、国学研究に関する基礎情報を共有可能な形態で蓄積する方法を模索するとともに、学内のさまざまな国学研究の間の連携を可能にする。将来的には、学外の国学者にとっての研究交流の場としての役割を果たすことを目指している。

## 3. 2012年度の成果

2012年度の成果については『日本文化研究所年報』今号の記事、「[「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の現状と今後]や「第3回国学研究会」でその詳細を紹介しているので、ここでは概略を述べるにとどめる。

### I 国学研究の基礎データ構築

#### (1) 『古史伝』 版本のデジタル化とそれにもとづく研究

『古史伝』 版本の精読のための研究会を定期的に開催し、書物のあり方や内容について、草稿本や諸本との比較・検討を行った。比較検討の資料として、前身の研究事業で撮影していたデジタル資料についてプリントアウトおよび製本をするなど、利用環境を整備した。研究会の成果については、記録の形で本文と結びつけて整序した形で記録した。

#### (2) 国学者の地域拠点の研究

これまで扱った各藩に関わる神道・国学関係資料の整理・検討を行った。

鈴屋および気吹舎の地方門人の活動の分析については、これまでの調査結果について整理・検討を加えた。

幕末・維新期を中心とした京都での国学関係者の活動および『古史伝』の諸本などについて、京都府立総合資料館ならびに向日市部文化資料館などで関係資料の調査を行った。

### II 国学に関する研究連携のための組織づくり

第3回国学研究会では、平田国学の出版活動を明らかにした吉田麻子『知の共鳴』について、著者を迎えて書評会を行った。